

真庭市蒜山郷土博物館朗読会『蒜山を舞台とした短編小説朗読会』

第一回 『大宮踊り』 (1958 年)

8 月 8 日 (土) 13:30～14:30

神崎信一著 (第 5 回新潮・同人雑誌賞受賞作)

朗読会 井伏鱒二、三島由紀夫が認めた短編小説の秀作!! 2024 年の再演から 2 年、多くの希望に応えて再々演決定!! 田舎の閉塞感に絶望し、都会への駆け落ちを試みる若い男女。蒜山・大宮踊を披露するため開催される民俗芸能大会をチャンスと決めた。公演先で偶然出会った人々の苦悩と現実。揺れ動く男女の思い。ふるさとの自然と心、文化の真の豊かさに気づかされるラストシーンは圧巻である。

第二回 『蒜山原の海の若鷺』 (1943 年)

初公開

8 月 22 日 (土) 13:30～15:00

安原萬次郎著

初公開となる本作。八束村から戦争に参加し若くして命を落とした丸山と正富。その二人を「蒜山の二少年」と美談にして軍部やマスコミが戦意高揚のシンボルにした。二人が幼き頃蒜山でいかに育ち、戦争に参加し、亡くなっていたか。戦争というものを蒜山が舞台であり、実際の戦時下に描かれた小説から時代背景などみてみたい。

第三回 『牛追い』 (2002 年)

10 月 24 日 (土) 13:30～14:30

内田省三著 (第 6 回内田百閒文学賞最優秀賞受賞作)

蒜山の酪農農家を題材にした短編小説。阿川弘之は「岡山縣北部高原地帯の、牛飼ひ農家代々の移り変りがよく描いてある。」としている。かつては多くの農家で行っていた農牛の放牧と草刈り。高度成長期を迎え、その姿は静かに消えようとしていた。自然と人との豊かな関係、薄れゆく蒜山の原風景を情緒豊かに描く。

いずれも 会場 蒜山郷土博物館 定員 50 名 (事前申し込み不要) 料金 無料 (ただし展示は要入館料)